

協働パイロット事業 (H27) 企画提案書

団体名：特定非営利活動法人夢楽団・自然体験基地

1 事業の名称

災害時子どもリーダー体験教室

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください)

東日本大地震は、我々静岡県民にとって大きな教訓となりました。甚大な被害の中、学校現場においても多くの犠牲者が出ました。災害が来ることは避けられないことですが、どんな状況の中で被災するかは誰にもわかりません。大人のいない場面で被災することもあります。そのために子どもたち自身が自らを守るスキルを習得しておく必要があります。それは子どもたちに改めて命の大切さを教え、生きる自信を与えるチャンスとなります。一泊二日の貴重な体験！

プログラム1.

読図による空間認識力と基本的なサバイバル技術の習得

プログラム2.

子ども用のダミー人形を使ったり、友人とペアで、緊急時の対応・救命法を習得し、命の大切さを学ぶ

プログラム3.

頼る人のいない場面で、一步を踏み出す勇気と責任感を養成(安全第一・高度2m・大型マット使用)

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

東南海を震源として大地震が発生すると予想されて久しいですが、その確率は低くなったわけではなく、いつやってくるかわからない状況が続いています。2011年3月11日の東日本大震災は、我々静岡県民の肝を冷やしましたが、4年が経過し再び私たちは油断してはいないでしょうか。静岡市には市民に危機意識の広報・啓発を手伝っていただきたいと思います。

東日本大震災で起きた石巻・大川小学校の悲劇は忘れてはなりません。一方で釜石東中学校の奇跡は模範としなければなりません。そしてこの両者の対照的なストーリーは世代から世代へと語り継がなければなりません。当NPOでは学校に代わり、命の大切さを語り継いでいます。その上で大人のいない場面、子どもたちだけで被災したときの対応を、小4～中1中心に継続的に教えたいと考えています。昨年夏には実験的に体験活動を行いました。SBSTVやTV静岡など地元2局が取材に訪れ、子どもたちの真剣な取り組みを紹介しました。子どもたち自身が、落ち着いて自らを守り年少者を助け、仲間を守るスキルを学びます。それは子どもたち自身が改めて命の大切さに気付き、生きる勇気を実感するチャンスとなります。静岡市には子供たちへの広報・啓発もお願いしたいと思います。

具体的には継続的な支援とPTA・学童保育・児童館・通学合宿などで広報させていただく機会を与えていただきたいと思います。

4 事業計画・実施スケジュール

A日程：7月25～26日

- 1日目 9:30～12:00：読図作図・サバイバル技術
13:00～16:00：救急救命法（CPR+AED）
16:00～18:00：懸垂下降体験
- 2日目 9:00～16:00：前日の習得テスト

B日程：8月1日～2日

- 1日目 9:30～12:00：読図作図・サバイバル技術
13:00～16:00：救急救命法（CPR+AED）
16:00～18:00：懸垂下降体験
- 2日目 9:00～16:00：前日の習得テスト

C日程：8月8日～9日

- 1日目 9:30～12:00：読図作図・サバイバル技術
13:00～16:00：救急救命法（CPR+AED）
16:00～18:00：懸垂下降体験
- 2日目 9:00～16:00：前日の習得テスト

D日程：8月22日～23日

- 1日目 9:30～12:00：読図作図・サバイバル技術
13:00～16:00：救急救命法（CPR+AED）
16:00～18:00：懸垂下降体験
- 2日目 9:00～16:00：前日の習得テスト

ABCD：9月12日最終検定・認定式・閉会式

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

読図・サバイバル技術等の指導

遠藤（元山岳ガイド—62歳）

森（アウトドア教師—26歳）

救命技術の指導

小山（救急救命インストラクター—63歳）

楮原（看護師—58歳）

講義&全体監修

鈴木（理事長・元山岳ガイド・CONE 自然体験リーダー・MFA 国際インストラクター—63歳）

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

サバイバルに関しては元山岳ガイドによる指導、救命技術は国際インストラクターが、また当 NPO 独自の、被災後の生活技術などは専門性と独自性を兼ね備えています。また万が一津波に流されたときの体勢なども教授します。

昨年夏には一泊二日で実施しました。子どもたちの関心を喚起しただけでなく、命の大切さを学び、年少者をサポートし、友達と助け合う貴重な体験をしました。

協働パイロット事業 (H27) 見積書

団体名：特定非営利活動法人 夢楽団・自然体験基地

企画のタイトル：災害時子どもリーダー体験教室

項 目	金 額	説 明
謝金	450,000	講師謝金 10000円×3人×9日=270000円 スタッフ 4000円×5人×9日=180000円 (現場準備片付け・講師スタッフ食事作り他)
旅費	205,000	レンタカー 23,600円×5回=118000円 (10人乗りワンボックスカー) ガソリン 140円×10ℓ×5回=7000円 宿泊経費 20000円×4回=80000円
雑役務費	54,000	訓練用 AED・安全ベルト・マット他リース 6000円×9日=54000円
印刷製本費	68,000	募集チラシ及び報告書作成 10円×200部+240円×200部=68000円
通信運搬費	36,000	報告書配送 180円×200部=36000円
消耗品費	75,000	講習用救護セット・筆記用具・白地図他 1500円×50セット=75000円
小 計 A	888,000	
消費税 B=A×0.08	71,040	
合 計 A+B	959,040	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な用途
助成金	890,000	
参加費収入	40,000	
自己資金	29,040	